



# 暮らしに寄り添う 高齢者住宅

## 人生に「はなまる」を！ そして最期まで「尊厳と夢」を！

2005(平成17)年に当「はなまる会」は医療法人として創業しました。現在では、訪問診療を中心とした有床診療所やグループホームなど、地域に密着した24時間365日対応の医療と看護・介護サービスを提供しています。当法人の矢野孝子理事長は「人生の大先輩方に最期は『はなまる』を贈ってさしあげたい」との想いを「安心・安全・まごころ」という理念に込め、日夜活動しています。東京都世田谷区の有床診療所「千歳台はなクリニック」を拠点に、今春開設間近の「コーシャハイム千歳烏山」(東京都医療・介護連携型サービス付き高齢者向け住宅モデル事業に選定)で医療・看護を担う「烏山はなクリニック」など、リアルタイムの情報共有システムにより、良質で安心のサービス提供に心がけています。

現在の高齢者住宅をめぐる環境ですが、急増しているサービス付き高齢者向け住宅(サ付き住宅)は、玉石混淆といわれることもさることながら、ひとくくりにはできないほど多様化しています。問題は事業者側の入居者との認識のミスマッチにより、入居後まもなく退去せざるを得ない重度の要介護状態や認知症の入居者が少なくないという現実です。私たち事業者は、入居者が安心して暮らせるなど、今後、ニーズに即した質の高いサ付き住宅を提供する努力がますます求められると、あらためて思うところです。

このようななか当法人は、介護サービスをいわば分離したサ付き住宅と、介護サービスを一体的に提供する特定施設入居者生活介護を併設した住宅を、東京都町田市に開設することを計画しています。南町田駅から広がる大型ショッピングモールと公園、そして総合病院に隣接した良好な環境です。供給不足といわれる要介護者向けの住宅として、ユニットケア形式で生活をサポートします。多くの高齢者は、自立期・要支援期・要介護期・終末期(ターミナル)と生活が変化していきますが、そのときどきに最適な支援ができる住まいこそが本来の終の住処であると考えます。

また大切なことは、入居者が最期まで自分なりの

「夢」を感じていただけるアクティビティケアの重要性です。以前、はなまる会では在宅の患者さんやそのご家族と一緒に温泉旅行に行きました。寝たきりの患者さんや末期がんの患者さんなどに大変喜んでいただいた意義のある大旅行となりました。

厚生労働省のデータでは、65歳以上の要介護認定者の約6割が認知症(日常生活自立度Ⅱ以上)とされています。この点からも、高齢者の生活の基礎となる3要素は「医食住」と認識しています。第一の「医」は医療・介護のトータルケアです。そしてBPSD(認知症の行動・心理症状)の発症を最小限にするような対応も重要で、これは、はなまる会が提供する医療・介護サービスの根幹です。第二の「食」は食事であり、素材を大切にしておいしさです。ユネスコの無形文化遺産にも登録された日本の「食文化」と「摂食・嚥下科学」の調和を基本に、たとえ嚥下機能が劣化しても対応可能なおいしい食事を提供します。そして、第三の「住」は「住まい」です。今回開設予定の南町田の住宅では、シングル各部屋にトイレ一体型のシャワーユニットを設けました。汚してしまうことが多い高齢者にとって、ご自分の室内をきれいにできることは、高齢者の尊厳を支える大切な要素と考えたからです。

今後も高齢者住宅経営者連絡協議会の一員として、各会員の皆様とともに、業界の地位向上に寄与する活動を推進し、真に消費者から信頼される健全性を高齢者の暮らしに実現して参りたいと思うのです。

### 大谷 博

おたに・ひろし

#### ●PROFILE

医療法人社団はなまる会常務理事。  
2003(平成15)年半導体関連事業から介護業界に移籍。メーカーで培ったプロセス管理と品質マネジメントの概念を介護事業に応用。数力所の介護事業会社の運営を経て現在に至る。

